

# 平成27年度第5回政策会議

日時 平成27年11月16日(水) 9:45~10:15

会場 市長会議室

参集者 工藤市長 中林副市長 片岡副市長 川越企業局長 山本教育長  
種田企画部長 高橋総務部長 入江財務部長

## 1 発電事業特別会計における風力発電事業について

◎対応 谷口経済部長 松塚恵山支所長 成澤経済部次長 干場工業振興課長  
和久井経済企画課長 寺澤恵山支所産業建設課長

### ◆ 議題の趣旨 ◆

発電事業特別会計における風力発電事業について協議しました。

### ◆ 協議の結果 ◆

本件の内容は了承されました。

### ◆ おもな発言 ◆

□谷口経済部長

風力発電事業について、事業の推移と現状であるが、この発電事業については平成14年4月から第3セクターによって始まったが、2年で破綻し、その後恵山町に施設が無償譲渡され平成16年の合併に伴い函館市が事業を承継し、現在に至っている。

平成17年度から平成26年度までの決算の推移であるが、機器の故障などで停止が相次ぎ、実質単年度収支はほとんどの年度で赤字となっている状況である。

施設の現状について、まず1号機は、ブレードの損傷等により昨年の11月から、また2号機は電子基板の故障等により本年3月中から停止中であり、本年度は一切稼働していない状況にある。

このような状況も踏まえ、存廃を検討したが、今後の収支見通しを勘案しながら試算した。事業廃止に伴い、NEDOへの補助金の返還が必要となるので、その義務が生ずる平成30年度までの試算をし、パターンとすれば両機とも稼働した場合、1機だけを稼働させた場合、それから27年度末をもって事業を廃止した場合の3つのケース比較を行った。売電収入や維持管理費等は、今までの実績等を勘案して見込んだほか、稼働させるための大型修繕、それからNEDOへの補助金については、業者やNEDOに現時点で確認した数値を用いている。

大型修繕では2機とも直す場合4,000万円程度、1機のみ場合は1,100万円程度で済む。補助金返還については、事業を廃止すると2機分で6,200万円程度、1機のみの場合2,400万円程度の返還が必要になる。

試算結果でパターンごとに平成27年度から30年度までの歳入・歳出、差し引きを示しており、それに伴う一般会計からの繰入金、NEDOへの返還金を加味すると、3つのケースの中では今年度末で事業廃止した場合の費用負担が最も少ない結果と

なっている。

当該施設は稼働後13年以上経過しており、業者からは試算に見込んだ以上の修繕が必要になる可能性は大いにあると聞いている。それらを踏まえ、平成27年度末をもってこの事業を廃止することとしたいと考えている。

廃止後、風車および変電施設等は、現在ただちに倒壊の可能性がある危険な状態にはない。撤去費用が正確ではないが、風車だけで1億数千万円、発電所の方も、5,000万円ぐらいかかるという状況である。

それらを踏まえ、当分の間は現状のまま存置したいと考えている。風車については、ブレードを固定するなどの危険回避措置をとり、定期的な安全確認を行っていくとともに、建設市況の動向も注視しながら、起債の活用も含めて撤去の手法やタイミングを検討していきたいと考えてる。

当初、変電所については、民地を借用していることから解体も考えたが、5,000万円強の費用がかかると聞いており、こちらも手法等について北電と協議しながら検討していきたいと考えている。

**■工藤市長**

風車の羽根は撤去しなくても大丈夫なのか。

谷口経済部長

亀裂が入っているということなので、確認する。

**■工藤市長**

周りに人家はあるのか。

**■松塚恵山支所長**

人家は無い。風車2号機のところから85m離れたところにパークゴルフ場がある。

**■工藤市長**

羽根が落ちたり、ひびが入ったりする可能性があるなら、それだけは外した方がよいのではないかと。

谷口経済部長

解体費は1億数千万円と言われており、羽根だけとった場合の金額も確認中である。事業は廃止する。返還する金額もNEDOが現在精査中である。

**■種田企画部長**

それでは、27年度をもって事業を廃止するということで決定させていただく。